


まちに暮らすひとりの生活者として、
なんのために、どんなふう to 働く？

てへぺろ社会科実験室 沼波 洋子



生まれ育ちは四国、
彦根で暮らして、もう25年になります

22歳

27歳

30歳

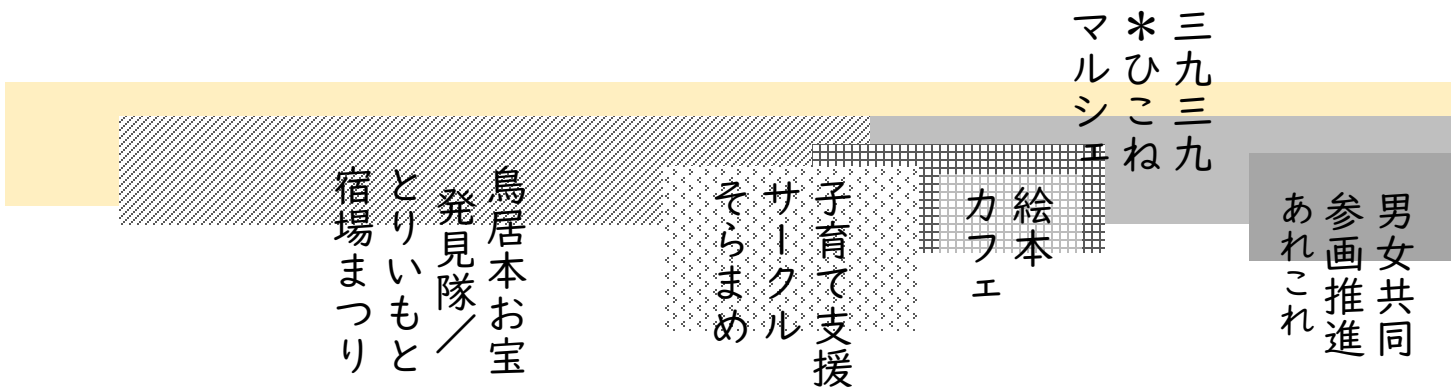
35歳

41歳

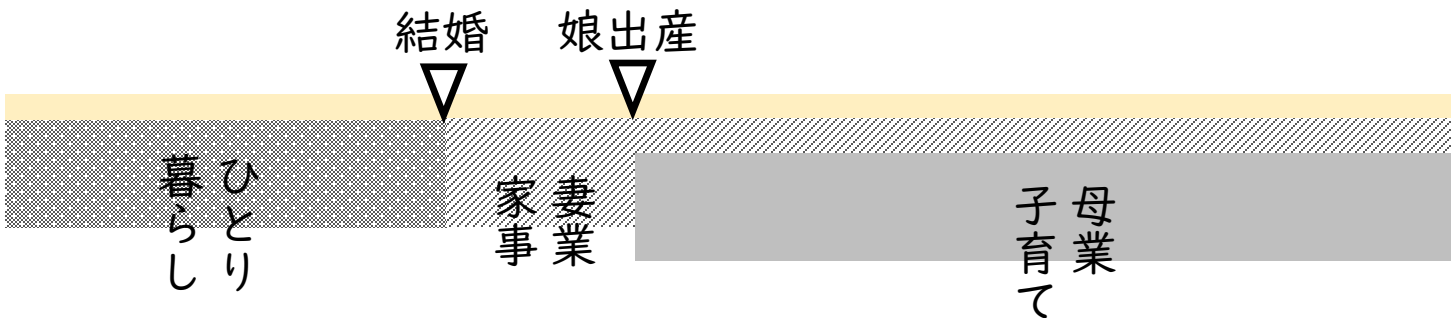
職歴



活動歴



家庭





紆余曲折、35歳でようやく
ずっと持ち続けていた自分の問いを
解くための仕事を見つけました



どうすれば、主体的なまちへの関わり
や継続的な市民参加を促すことができる
のだろうか？

どうすれば、多種多様な活動の場が
まちに生み出されるようになるのだろ
うか？

どうすれば、こんなにギクシャクした
社会で、他者と関係性を築こうと思え
るようになるだろうか？

どうすれば、価値観の多様化が進む中で「いっしょに何かをつくる(共創)」ことができるのだろうか？

これからの時代に求められるのは
「対話の場のコーディネーター」

という気づきから40歳で独立し、仲間
と共に「てへぺろ社会科実験室」を立
ち上げました



これからのまちづくりや組織づくり、
教育、メンタルヘルス等に役立つ対話
手法の開発と実験

(対象：大学生/社会人/親/子ども)

企業研修プログラム企画実施
ファシリテーション

共創哲学・哲学対話に関する研究

はて私は、まちに暮らすひとりの生活者として、①なんのために、②どんなふうに働くといいのだろうか？

① いいまちで暮らしたい、いいまちをつくりたい、そのために

② 「この仕事をすればこのまちをつくることになるかもしれない」と思いながら、いろいろな仕事と探究を幾重にも重ねていく

あなたは社会のどんな問題を解決したいですか？

どんな問いを立てますか？

その問いを解くための仕事がありますか？